平成 24 年 2 月 23 日

「田舎で働き隊！」研修報告書

村西 真典

１．研修目標
２．甘楽富岡地域概要
３．研修内容と研修所見
４．「田舎で働き隊！」についての評価・感想
５．謝辞

１．研修目標

平成 23 年度「田舎で働き隊」事業研修実施要領による期待される成果：地域資源を生かした新しい農業の姿について企画・提案するため、耕作放棄地の再生、農閑期である冬期に栽培可能な園芸作物に関して経営分析が実施される。新規就農者が定住するための地元農家との関係づくり。

私個人の研修に向けての抱負：実践的な農業技術を実際に農家さんから吸収し、自分の技術力を向上させたい。地元の農家さんたちとのコミュニケーションを積極的にとり、地域に根付いた人間関係づくりをしていきたい。また、将来的に農業で生きていくために必要なこと、技術面と精神面、についても学んでいきたい。

２．甘楽富岡地域概要

古くから養蚕･蒟蒻栽培を中心とした産業が盛んで､明治５年には｢官営富岡製糸場｣が、明治１１年には、産業組合の原点となった「上州南三社（下仁田社、甘楽社、碓氷社)」が設立され、さながら養蚕立国の中心として我が国の産業を牽引した。蒟蒻栽培も傾斜地の畑作の貴重な換金作物として成長し、現在でも蒟蒻市況は当地から全国に発信されている。しかし、生糸絹製品の輸入の自由化と蒟蒻相場の急落により、販売高は数年で最盛期の 10％に激減した。生産を支えていた組合員は高度成長経済の中、他産業へ流失し、地域に残ったわずかな生産者は、菌茸・野菜・畜産等への大転換を余儀なくされ、中高年・女性等が支える脆弱な農業地域に一変した。その後、JA による農業生産構造の変化への対応策が実施され、徐々に生産力の回復が現実になるに従い、農業従事者の減少などに歯止めがかかった。近年では販売型少量多品目生産が普及定着し、農産物の生産が増加し、都内大手量販店の青果売場に JA の売場コーナーを設け「インショップ店」としてその販路を拡大した。

環境面は、115～900m という標高差を持つ典型的な中山間地域で、起伏に富んでいるが、３方を山々に囲まれているため気候は比較的温暖であり、年間の平均気温は 13～14℃となっている。年間降水量は、1,200～1,400mm で冬期は晴天が続き、降雪も年に 1～2 回程度あるが、一両日で融雪する。夏の「雷」、冬の「上州からっ風」に代表されるよう、四季の変化にも富んでいる。

参考資料 JA 甘楽富岡ホームページ http://www.jakantomi.com/html/gaiyo/index.html

３．研修内容

2011 年 9 月から 2012 年 2 月までの 6 か月間、甘楽富岡地域で農業実施研修を行った。1 ヵ月ごとに受入れ農家が変わり、計 5 軒の農家（9 月と 2 月は同一の受入れ農家だったため）での研修となった。基本的には各農家に毎日通い、それぞれの農家で栽培されている農作物に関する作業をした。以下、月ごとに各農家での研修内容について述べていきたい。

9 月 1 日～9 月 30 日
受入れ農家：桐渕隆重さん
研修予定内容：「露地野菜」葉物野菜の収穫・出荷
研修実施内容：ニラ、インゲン、茎ブロッコリー、カリフラワー、ハクサイ、下仁田ネギの管理作業（追肥、消毒、土寄せ、除草など）
サラダホウレンソウの播種
ビニールハウスの解体・組み立て
畑の耕耘、土壌消毒など
研修所見：

予定では収穫・出荷等を行うことになっていたが、９月はちょうど出荷野菜の端境期になっていたため、管理作業や片づけを中心に研修を行った。
収穫物があれば仕事は収穫と出荷の作業にほとんどの時間を取られてしまうが、その様なときでも仕事は多くある。その一つに管理作業がある。追肥や消毒、土寄せなどの必須作業を実際に行うことができてとても勉強になった。自分でホースを引っ張って畑に入ったり、肥料を背負って畑にふったりすることで農家の感覚を覚えていくことは重要である。また、管理機やトラクター、土壌消毒機の機械を使っての作業ができたのも良かった。これらの機械も自身で使用してみないとわからないことばかりなので、ここで作業をすることができたことは大きな経験になった。ビニールハウスの解体・組立の作業はめったにできることではなく、今後自分も必ず建てるものなので勉強になるところは多かった。構造、工具、作業などやってみなければわからないものだった。９月の桐渕さん宅では農家の普段は見えにくい仕事ができてとても勉強になった。

10 月 1 日～10 月 31 日
受入れ農家：（有）中里春風　　中里泰明さん
研修予定内容：「米麦作業（稲刈り他）」農業法人が実施する土地管理研修
研修実施内容：米の袋詰め作業
　　稲刈り補助、運搬補助など

研修所見：
　中里春風さんでの作業はほぼ毎日同じ内容で、イネの刈取り補助・刈り取ったイネの運搬・玄米の袋詰めであった。作業的には当然中里さんに遠く及ばなかったものの、袋詰めの作業は日に日にコツを掴んでいったと思う。稲刈り補助では、コンバインが効率的に動けるように四隅刈りを行ったり、脱穀をしたりした。しかし、どのようにすればいいのか要領を得る前に研修を終えてしまった。
　今回、イネの収穫最盛期ということで毎日どんどん仕事があり、その仕事量に初めは驚いた。とにかく足を引っ張らないようにすることを初めは心掛け、従業員レベルで扱われることを目標に仕事に取り組んだ。しかし、目の前の仕事に熱中するあまり中里春風で行われる仕事を多く把握するには至らなかった。
　この１か月は、私の中で「研修」よりも「仕事」ということを強く意識していた。研修生でありながら、従業員の一人として責任ある仕事ができることは貴重な機会だと感じたためである。どのように動けば仕事がしやすいのか、自分がどれだけ動けば自分以外の人が楽に仕事ができるのか、これらのことを常に考えながら作業を行った。イネについての知識や仕事のやり方、仕事への姿勢など多くのことを現場の仕事から学ぶことができた。

11 月 1 日～11 月 30 日
受入れ農家：高野一馬さん
研修予定内容：「露地野菜（ネギ、レタス）」高野新規就農者とともに
研修実施内容：レタスの収穫、袋詰め
ナスの収穫、袋詰め
ネギの土寄せ、畑の草刈り
ニンニクの種の選別、植え付け
研修所見：
高野さんは３年前から甘楽町で自然塾寺子屋のスタッフとして働きながら畑を始め、今季から本格的な作付けをしている。新規就農者ということで、これから自分が始めようとしていることに最も近い方である。今年は霜が降りるのが遅れたため、この時期までナスの収穫作業を行った。夏から冬に向けての 11 月はレタスをメインに収穫・出荷をしていて毎日収穫作業を行った。農家の仕事で多くの時間を使うのが、出荷のための袋詰め作業である。その作業を手早くできるのかが１日の仕事を効率的に行うための必要条件となる。
また、年間の作付け計画や農業を始めるにあたっての話など私にとって勉強になることがたくさんあった。大抵の研修は受け身で行われることが多いが、近い目線で共に考えながら仕事をすることで、農家としての自分を想像しながら取り組むことができた。
寺子屋のスタッフとしての仕事にも参加し、そちらの仕事も大変興味深かった。
すでに始めた人とこれから始める人で、技術的な部分と気持ちの部分で大きな差があることを感じた。いろんなことに私は不安を感じているため、近い目線で相談にのっていただくことができるので、とても助けられている。

12 月 1 日～12 月 28 日
受入れ農家：白石農園　白石義行さん
研修予定内容：「契約栽培（下仁田ネギ）」少量多品目経営
研修実施内容：タマネギの植付け、肥料散布（元肥）
ダイコンの収穫、調整
サツマイモの収穫
コンニャク芋の収穫、選別、箱詰め
下仁田ネギの収穫、調整、袋詰め、運搬
ゆずの収穫、選別、袋詰め
トラクターによる耕耘作業
作業場の片づけ、箱作りなど準備作業、配達補助、直売所の店番
研修所見：
白石農園さんでは 12 月は贈答用の下仁田ネギに関する作業が主として行われた。下仁田ネギのほとんどは個人との契約で取引されており、一般的な農協出荷とは異なる。その違いについての話し、長所短所など、多くのことを勉強することができた。作業的には、私は下仁田ネギの収穫・調整作業を行い、選別・箱詰めは白石さんが行った。私が箱詰めを行わなかった理由として、市場出荷のように出荷したら不特定多数の誰かが購入するのではなく、白石さんの下仁田ネギが欲しいお客さんに直接届けるため、中途半端な仕事をすることはできないのである。農家自身が価格を決めることができるが、少しでも信用を失うとお客さんが離れてしまう緊張感を持って仕事をしなければならない。すべての農家に言えることではあるが、白石農園では特にそのことを意識し、農産物を扱うことに対する考え方を教わった。また、一人で作業するとしてどうしたら効率的に仕事が進むのか、トラクターで畑を起こす時にどうすれば最短距離・最短時間で作業ができるかなど、実践の中から農家として必要な考え方や技術を勉強させていただいた。

1 月 5 日～1 月 31 日
受入れ農家：野口農園　野口宣之さん
研修予定内容：「施設栽培（ニラ収穫・調整)」野口農園での経営体系の聞き取り
研修実施内容：味ニラの準備作業（ハウスのビニール張り、捨て刈り、マルチ張り、マルチの穴あけ）
コマツナの収穫、袋詰め
ハウスの解体、作業場・圃場の片づけ
出荷手伝い
研修所見：
　野口農園では夏期はナス、冬期はニラを栽培し、この２つをメインに年間の作付けを行っている。群馬県では冬期にビニールハウスを使用して栽培したニラを味ニラとして出荷して付加価値を付けている。野口さん宅でもこの味ニラを栽培しており、私は栽培方法や調整の仕方などの技術面と味ニラの経営面を教わった。ここでは、味ニラの栽培法は記述しないがハウスを利用して本来夏の野菜であるニラを冬に栽培し、夏よりも葉幅の広いモノにして食味もよくなるところに強く魅力を感じた。しかし、新規で始める場合には初期にかかるコストが高く、必要な資材・機材も多い。ビニールハウスは当然必要であり、マルチ、大トンネル又はピアノ線、ビニール、コンプレッサー、束ね機など揃えなければならないモノはたくさんある。作業的にもハウスのビニールかけ、収穫後のニラ吹き、結束、調整と一人では少々手間と時間のかかるものが多くなる。正直、家族経営に向いている野菜といえるだろう。新規で始めるには難しさのほうが目立ってしまう野菜だが、私の栽培したい野菜の一つなので作業の一つ一つを実践して研修できたことは良い経験となった。

2 月 1 日～2 月 29 日
受入れ農家：桐渕農園　桐渕隆重さん
研修実施内容：味ニラの収穫、調整
　　インゲンの定植準備、定植、播種、管理
　　トラクターによる耕耘作業
　※2 月 20 日まで
研修所見：
　2月の研修予定を変更して9月に続いて桐渕農園さんで研修させていただくことになった。先月の野口農園さんでは施設栽培の味ニラについて研修を行ったが、桐渕さん宅でも同じ味ニラを栽培しているため今月も味ニラについての作業を多く行った。同じモノを栽培していても農家によってそれぞれのやり方があり、それぞれのこだわりがあることを知った。また、インゲンの管理の難しさも研修の中から勉強させていただいた。毎日のハウスの開け閉めは天候によってどれくらいビニールを開けるのか、小トンネルを閉めるときに隙間が空かないように気を使うなど、経験から得られる技術が多く必要だと感じた。毎日、管理をしながらインゲンの様子を良く観察することでハウス内の温度調節や病害虫の発見をできるのである。当然インゲンだけに言えることではなく、すべての野菜を管理するうえで観察力は必要となる。今回のインゲンのハウスの開け閉めから農家に必要な「観察することの大切さ」を勉強することができた。これからも、日々ただ作業に取り組むのではなく小さな変化に気づけるような観察力を養っていきたい。

4.「田舎で働き隊！」についての評価・感想

今回、「田舎で働き隊！」研修を甘楽富岡地域で実施している間に、何を学んで、何を考えて、何を感じて、何と出会ったのかをここで述べていきたい。

まず、耕作放棄地の再生・冬の農閑期に栽培可能な園芸作物について考えていこうと思う。現実に、甘楽富岡地域で耕作放棄地は多く見られ、農家さん同士の会話の中でも「〇〇の畑が空いた」、「〇〇の畑を貸したい人がいる」といった内容のものが良く交されている。しかし、一戸の農家では耕作可能な面積は限られているし、耕作に適した土地というのはすでに誰かが使用しているため、おのずと残っている土地は畑作業をするには何かしらの悪条件があるということになる。そのため、耕作放棄地という名がつくに至ってしまう。その悪循環を止めて再生に導くことは容易ではない。新規就農者や元々の農家によって畑として再利用することがもっともな解決策だと思うが、現実的な数字は多く望めないだろう。まだまだ課題として甘楽富岡だけでなく、多くの地方で残っていくことで、今後も検討していく必要がある。

農閑期に栽培可能な園芸作物についても新たに提案することは少々難しく思える。先ほども述べたが、この地域は中山間地域であり、各地区によっても気候・環境は様々である。そのために少量多品目という栽培方法を行っており、関東地区に販路を持つことができている。加えて、積雪の少ない地域のため農閑期というものが極めて短く、もしくは無いと思われる。それは地域の特色であり、露地野菜・施設野菜など上手く組み合わせれば年間で隙間なく出荷することも可能であり、実践している農家も少なくない。例として味ニラがあげられる。早ければ 12 月末から出荷が可能であり、2〜4 回収穫ができる。数十年前から甘楽富岡地域で栽培されており、現在でも冬期に適した野菜だと私は思う。露地野菜に限れば確かに冬は栽培可能野菜が少なくなり、利益率の高い野菜の出荷は難しいかもしれないが、ハウスを利用した施設栽培であれば冬は農閑期ではなくなると思われる。

続いて、新規就農者が地域で生活していくための関係づくりについて述べたい。今現在、甘楽富岡には数名の新規就農者がおり、青年海外協力隊 OB の方が 2 名就農している。この地域では青年海外協力隊の野菜隊員候補生、村落開発普及員候補生などの研修を受け入れているため、よそから入ってくる人に対して寛容な部分が多くあると思われる。人それぞれと言ってしまえばそれまでだが、私の出会った農家さんでよそから来たことに関して、不快感を抱くような経験は無かった。以前、ある農家さんが私に「他のことだったらわからないけど、農業したいって言っている人のことを応援しない人はいない」と言っていただいたことがあるが、そのように感じることは多い。また、研修中は出荷の手伝いにも参加させていただいて出荷場に来る農家さん達に自分のことを紹介してもらうこともあった。そのように、あちこちで自分の顔と自分のやりたいことを伝え、多くの方に知ってもらうことが地域で生活していくことの第一歩だと言える。その部分は一人では進めづらいところなので、研修で農家さんと

知り合うことができ、出荷場や様々な会議に連れて行ってもらえたことは新規就農者にとって有利に働くことだと思う。

最後に、6 か月の研修で得られたことについて述べたい。研修を受け入れていただいた 5 軒の農家さんには本当にお世話になり、それぞれ 1 か月間内容の濃い研修を農家さんからいろんなことを学ばせていただいた。実施研修を通じて、栽培技術に加えて現場での仕事の仕方・考え方を実際に一緒に働きながら実践できたことは、今後の私にとって大きな経験となっている。また、日々の作業の中から自分が農家として生きていくための課題も多く見えてきて、足りない部分を補うためにどうするのかということも自覚できた。それから、ネットワーク作りの面でもとてもお世話になり、いろんなところに連れて行ってもらうことで多くの農家さんに顔を知ってもらうことができた。前にも述べたが、新規就農者にとっては、これから農機の手配や栽培についてのアドバイスを得るためには多くの農家さんと知り合い、情報が多く入ってくることが望ましい。そのため、今回の研修で農家さんネットワークを広げることができたのは大きな収穫であった。

これから、新規就農を目指す私にとって、この研修は技術面・生活面での地盤作りとして多くの成果があったと思う。さらにその先の「農家としての自立」を目標に今後も日々努力し、農家さんや地域とのつながりを大事にしていきたい。

５.謝辞

平成 23 年度「田舎で働き隊！」事業を実施するにあたって、このような機会を用意して頂き、社団法人海外農業開発協会、特定非営利活動法人自然塾寺子屋、甘楽富岡地域集落活性化協議会の皆様に心より厚く御礼申し上げます。また、研修を実施するにあたって、受入れをしてくださった桐渕隆重さん、有限会社中里春風さん、高野一馬さん、白石義行さん、野口宣之さん、さらには本研修に協力してくださった甘楽富岡地域の皆様に重ねて御礼申し上げます。ありがとうございました。

平成 23 年度「田舎で働き隊！」研修生　村西 真典